

TICOが徳島新聞大賞を受賞



写真は、左から福士康二事務長、吉田修代表、松村武史医師

徳島新聞大賞の推薦にあたって

徳島新聞社
報道本部 社会部
乾 栄里子

「TICOってなんで、これまでエントリーされなかったの」。徳島新聞賞選考のためのプレゼンテーションの際、審査員に言われた。それだけインパクトが大きかったのだろう。この時受賞を確信し、心が躍った。1993年に発足した前身組織時代から、徳島新聞はさまざまな活動を追いかけて、記事にしてきた。徳島で国際支援団体と言えばTICOであり、身近な取材先だったからこそ「灯台もと暗し」だったのかもしれない…。とりわけ今年は、ウクライナ避難民のための医療支援活動が注目を集めた。インタビューの際吉田修代表理事に水を向けると、「発展途上国ではウクライナ以上に貧困や飢餓で命が奪われている。その現実にも目を向けて」との言葉。TICOのまなざしはいつも、困難な状況に追いやられた世界の人々に向いている。尊敬の念しかないがメンバーたちはきっと、『地球人』として当然と、こともなげに言うだろう。

■ TICO事務局より

この度の徳島新聞大賞の受賞は、これまでのTICOの活動を支えていただいた会員や支援者、ボランティア、そして事務局や海外の活動サイトで力を尽くしてくださったスタッフの皆様に対する評価でありご褒美でもと思っております。みなさん、本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いたします。

【ザンビア心臓血管外科
技術移転事業 特集号】

- 1 徳島新聞大賞受賞
- 2 Facebook投稿より
+
6 参加メンバーからの寄稿
- 3 松村先生からの寄稿
- 7 吉田先生からの寄稿
- 8 カンボジア支援予定

Facebook投稿より

ザンビアでの 心臓血管外科手術技術移転事業 2年ぶりに再開！

この事業は、2020年2月の第7回目以降、COVID-19の感染拡大により延期が続いていました。この度、ザンビア国内での感染も落ち着いてきたため、TICOチームによるプロジェクトを再始動させました！

新病院が設立されていた！

私たちの新たな活動拠点となる、ザンビア・ルサカのNational Heart Hospital。

昨年始動したばかりのこの病院は、ザンビア国内の心臓治療の頂点に位置付けられていて、将来的には南部アフリカの心臓病治療や教育の中核を担う施設にしたいという思いから首都ルサカの空港近くの大自然の中に建てられています。中国企業により建設された3階建ての建物で、一般病床100床＋ICU25床が設置されており、日常茶飯事の停電にならないように空港施設と同じ無停電電源になっていて、万一の場合の非常用発電装置も用意されて



います。

とは言っても、ザンビアはまだ豊かではないので、都心と空港を結ぶ幹線道路から病院へは、未舗装のガタガタ道を1キロ以上進むことになります。夢や希望はいっぱい、一方でお金や物資は限られており、どう折り合いをつけていくか大きなチャレンジです。

第8回派遣(4月24日～5月13日)

第8回目派遣は医師2名、臨床工学技士1名、看護師1名、調整員1名の計5名からなるチームで、調整員1名は先行して4月24日より現地に入り準備を行いました。残りの4名のメンバーは、現地時間5月1日午後にはザンビアの首都ルサカに到着し、5月13日まで4例の心臓血管外科手術を通して、技術移転と現地メンバーの教育研修を行いました。

〈派遣者〉*敬称略

- 松村 武史(まつむら たけし)
医師/プロジェクトマネージャー(さくら診療所)/
徳島県在住/50歳
- 江川 善康(えがわ よしやす)
医師/さくら診療所勤務、元四国こどもとおとな
の医療センター副院長/徳島県在住/68歳
- 山崎 康祥(やまさき やすのり)
臨床工学技士/藍野大学 医療保健学部 臨床工
学科准教授、元国立循環器病センター手術部
厚生労働技官/大阪府在住/49歳
- 吉田 さくら(よしだ さくら)
看護師/徳島県在住/22歳
- 中村 哲郎(なかむら てつろう)
調整員/東京都在住/59歳

心臓手術技術移転再開1例目はまさかの停電!

5月4日(水)、朝から手術室で準備開始、今日の患者さんは46歳の男性で僧帽弁置換術の手術です。執刀はザンビア人医師2名、それをTICOチームがサポートします。

午後になって手術室が約30分に渡りまさかの停電!幸い、人工心肺装置などはバックアップ電源のお陰で無事に動き続けており、携帯電話のライトや助手のヘッドライトなどを使用し無事に乗り切りました。さすがはザンビア人、停電にも負けず、手を止めずに手術を続ける姿はあっぱれです。

手術は19時に終了し、その後ICUに移動しましたが出血量が多く再度手術を行い止血をして、朝5時ごろには容体は安定しました。

色々とありましたが、ザンビア・メンバーは若く最後まで明るく元気で、新病院での心臓手術第一症例目の成功例となりました。



2例目:あれっ!みんな見ている時刻が違う

5月6日(金)、第2症例も朝8時から手術室で準備開始。時間にルーズであった前回の反省を踏まえて、まずは使う時計の統一。そこに手術時間や体外循環時間も掲示されるように変更しました。

今日は33歳女性の僧帽弁置換術、三尖弁輪部形成術の手術でした。前回よりも難度の高い時間のかかる手術でしたが、5%程度所要時間が短縮。手術は成功して患者さんの容体も安定しており、時間と質に対するチームの意識が向上したことが見られました。

3例目:手術は準備で9割決まる!

5月9日(月)、3例目の手術です。

「仕事は準備で9割決まる!」これは手術にも通じる名言です。どのような状況になっても対応できるように、万全の準備を行って手術に臨みます。

心臓手術は心臓を止めるために、迅速にかつ正確に進めることが必須で、複雑なステップを一つ一つスピーディーにチームワークでこなしてゆく、まさに職人技の積み重ね。そのために必要な消耗品の種類や数も多く、整理整頓されていないと手術中にものを探して手術が止まってしまうこととなります。整理整頓のやり方を指導して、頻繁に使用するものは手元に、同じ種類は同じ場所に置き、さらに輪ゴムなどでまとめるなど、ちょっとした工夫で手術時間の短縮を目指します。

Contribution

新病院に期待!

松村 武史

まつむら たけし

医師

プロジェクトマネージャー

(さくら診療所)

5月1日から13日までザンビアで第8回現地活動を行いました。今回からUTH (University Teaching Hospital) を離れ、新しくできたNHH (National Heart Hospital) での活動となりました。NHHは第6回活動から一緒に活動しているMutema医師を中心に新しいスタッフが集まっており、UTHから移ってきた手術室のAlex看護師、体外循環師を目指すCollins看護師も含め、自分達がザンビアの心臓血管外科を支えるという意気込みを強く感じました。また、循環器内科のKabwe医師と話す機会がありました。ザンビアの心臓血管外科の患者さんの8割以上が僧帽弁の患者さんで、末期になってから病院に来るのがほとんどで、今回手術のリストに上がった人たちは、ほんの一握りの状態の良い患者さんたちで、大抵は手術のタイミングとしては手遅れになっていると聞きました。私たちの活動が早期発見に結びつくように、ますます頑張りたいと思います。

今日の患者さんは42歳女性で僧帽弁置換術、左心房縫縮術、三尖弁輪部形成術の手術でした。前回よりも難度の高い時間のかかる手術でしたが、手術は成功して患者さんの容体も安定しており、毎回ザンビアチームの意識向上が見られています。



総括会議と日本大使との面会、そして帰国

重症僧帽弁狭窄症、三尖弁閉鎖不全症、巨大左心房、肺高血圧症の患者に対する4例目の手術(僧帽弁置換術、左房縮小術、三尖弁環状形成術)は、手術が複雑であったため、手術時間が長くなりました。ICUに入院後、患者の血行は数時間安定しましたが、血圧が低下し始め、エコーで心膜に血液を認めたため、再手術を行いました。

再手術後、心不全(EF20%以下)のため強心剤の投与で安定した状態が続きましたが、5月11日の夜、心不全が悪化し、ザンビアの外科医が蘇生しましたが、残念ながら患者さんは息を引き取られました。経緯についてはご家族に報告し、心臓血管外科医長のMutema医師とNHHは管轄する保健省に報告済みです。

今回、患者さんを救うことができず、大変申し訳なく思っています。今後、重症心不全患者を救うためには、NHHがECMOなどの機器を導入し、このような心臓手術の合併症に確実に対処できるようにする必要があります。

ご遺族の皆様にご心よりお悔やみを申し上げます。

参加メンバーより

ザンビア心臓血管外科手術 移管プロジェクトに参加して

山崎 康祥
やまさき やすのり
臨床工学技師

今回の活動では、手術1日目にして術中に停電が発生するというアクシデントに見舞われました。人工心肺装置は患者さんの生命を担っており、停電は最も起こってはならないものですが、ザンビアでは日常茶飯事となっています。今回は幸い内部バッテリーで稼働できたため大事には至らず、無事に手術は終了しましたが、ザンビアでは、臨床工学技士そのものの制度がありませんので、人工心肺装置の操作だけでなく、停電対策などがおこなえる工学的知識をもった技術者の育成も重要な課題でした。私たちが活動したNHH(ザンビア国立心臓病院)では、心臓手術をおこなっていくための医療機器の不足や、医療機器はあるが、稼働に必要なケーブル類や周辺機器の不足が特に目立ち、これらの整備とともに人員の確保、医療スタッフの教育が今後さらに必要であると思います。ICUで患者さんが回復した姿をみると、多くの苦労が実を結ぶ瞬間ですが、手術を受けることができない患者さんがたくさんいらっしゃることを思うと休んではいられません。明日のザンビアでの心臓手術のために今後も頑張っていきたいと考えています。

5月13日(金)、今回の活動最終日の午前中は主要メンバーが参加した総括会議、リーダーの松村医師より今回の振り返りを行い、総評を伝えました。

毎回手術後にTICOチームで行ってきたのは、手術の振り返り。独自に作成した評価フォームを用いて、手術時間、職種別に良かった点・課題点、そして10段階評価でのスコアを皆で話し合って記入して、その後にはザンビアチームにフィードバックを行います。

心臓手術は、質を確保しつつ、どれだけ短時間でいけるかが患者さんの予後を決定します。当初は全職種ほぼオール1というスタートでしたが、このフィードバックを毎回行い、各メンバーに気づきを与えることで少しずつですが改善につながってきました。自分のことが評価されるということで皆真剣!やはり自分ごとにならないと状態は改善されません。まさに“100里の道も一歩から”。次回までにどこまで改善が進むか楽しみです。

午後には日本大使公邸にお招きいただき、水内大使とお会いすることが出来ました。我々の支援活動へのご協力に対するお礼と今回の活動報告を行い、大使からは労いのお言葉を頂戴しました。



ザンビア保健省との会合

5月3日には、ザンビア保健省にて事務次官のカソンカ教授(Lackson Kasonka)の招きにより、今回の我々のプロジェクトに関してザンビア保健省、National Heart Hospital(NHH)、在ザンビア日本大使館、TICOのメンバー約20名が一堂に会する会合に出席しました。

カソンカ教授からは、TICOそして日本の長年の支援に深く感謝する旨説明があり、心臓疾患治療の重要性を考慮して今後も継続して支援をしてほしいとの要請がなされました。

これに対して、松村医師からはザンビア保健省と日本大使館の支援について深謝する旨伝え、今後NHHと協働して心臓血管外科手術の技術移転を通じてザンビアの患者さんへ貢献してゆきたい旨伝えました。

また日本大使館の大湊参事官からも、日本としても支援を継続して行なってゆきたい旨発言がありました。

その後、TICOメンバーとNHHのムテマ医師とチャングエ医師は日本大使館を訪問して遅野井医師(一等書記官兼医務官)と面談しました。



皆様のご支援に感謝!

今回のプロジェクト実施に際しましては、以下の皆様より物品寄附を頂戴しております。改めて深くお礼申し上げます。

- 尾西食品株式会社様 アルファ米商品 50食
心臓手術は朝から夜までノンストップで続きます。
なかなか食事の時間が取れず、気がつくと昼から夜

まで何も食べられないことも。今回はメンバーがいつでも温かい日本食を食べれるようにと頂戴した災害食を現地メンバーと一緒に頂きました。お湯を入れて15分で美味しい日本食を食べれるということで、皆、興味津々。いざ食べ始めると、美味しさにびっくり!、買いたい!、などなど絶賛の嵐、皆さん感激して完食。ちょっと食べ過ぎでは…という方も。



● 株式会社JMS様 手術道具

良い道具が良い仕事につながる、ということで、頂戴した新品の手術道具をザンビアチームに寄付しました。この道具で、ザンビアの患者さんのために良い仕事に励んでほしいです。



● 松吉医療機器株式会社様 子供用マスク 段ボール箱
沢山のマスクを頂戴しました。小児の感染予防に大切に使用させていただきます。

レポート:中村調整員

エドワーズライフサイエンス財団とのオンライン会議を開催

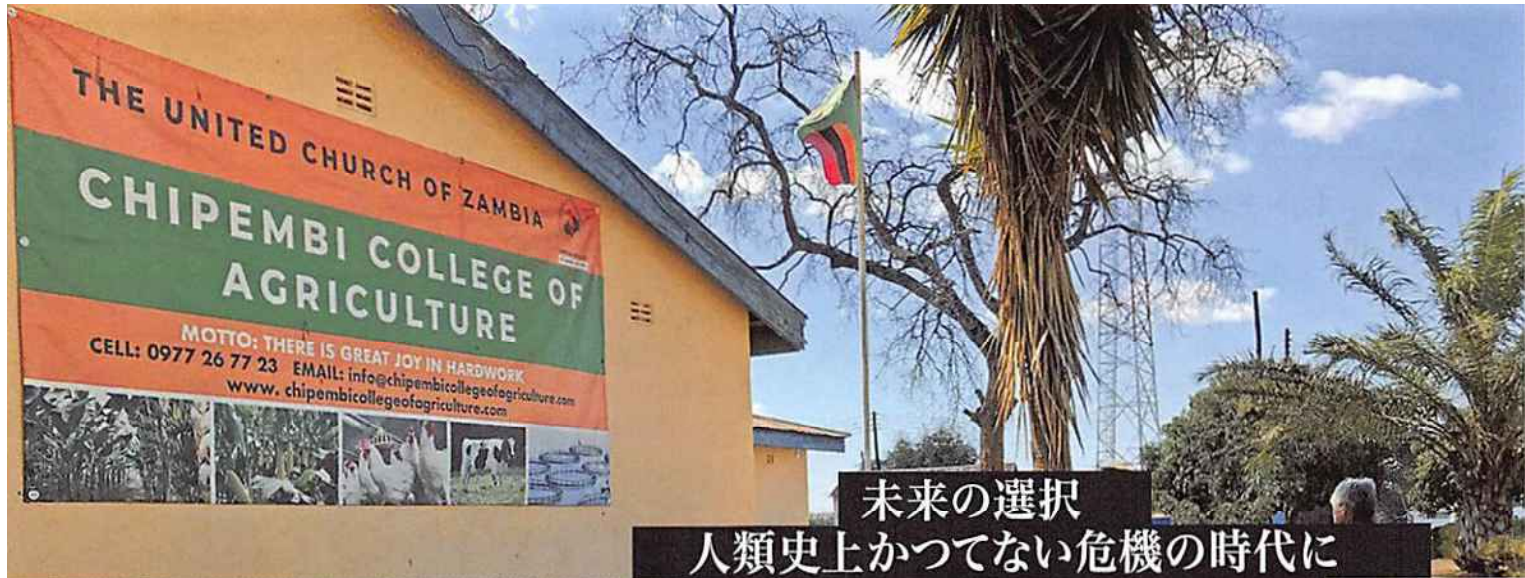
TICOでは昨年より米国のエドワーズライフサイエンス財団の助成を受けています。Every Heartbeat Matters という助成プログラムで、治療機会を十分に得られていない構造的な心疾患およびクリティカルケアの患者さんの生活を向上する世界各国での人道的な取り組みへ支援されており、私たちのザンビアでの取り組みも選んで頂いています。6月1日、進捗状況等を報告しました。一人でも多くのザンビアの方々を支援できればと思います。

参加メンバーより

TICOの活動に参加して

橋本千明
はしもと ちあき
看護師

初めてTICOの活動に看護師の現地ボランティアとして参加しました。TICOがザンビアで心臓手術の技術移転をしていることは聞いていましたが、自分が参加するとは想像していませんでした。看護部長さんのお話では、ザンビア人看護師や看護学生の状況として心臓外科手術などで必要とされる看護業務を、教科書で見ただけで実践機会が少ないのが悩みとこのことでした。一方で前回までのTICOの活動に参加しているザンビア人看護師さんが育ってきていたり、経験豊富な管理職の方がいらしたので、その方たちを軸に新しいスタッフへも必要な業務を説明して行ってチームとして対応できる内容を増やすようにしました。また、お互いにこまめにコミュニケーションをとるよう心掛けました。その結果、皆で協力して手術のサポート、患者さんへの看護をすることができました。ありがとうございました。



未来の選択 人類史上かつてない危機の時代に “Global Cooling Farm” という提案

吉田 修
よしだ おさむ

特定非営利活動法人「ICO」代表
さくら診療所 医師

天才宇宙物理学者ホーキング博士が亡くなる前、人類は100年で滅ぶと预言した。滅亡の原因は、世界核戦争、地球温暖化、プラスチック汚染などが考えられる。どれも深刻であるが今回は地球温暖化について考える。グレッタ・トゥーンベリさんが「大人たちは私たちの未来を奪っている」と抗議の座り込みを始め、世界の若者が同調し大規模なデモが各地で行われている。この夏の世界の猛暑被害も連日報道された。実は日本も被害大国である。Germanwatchの発表では2018年温暖化被害額は日本が世界1位であった。「2050年までに温室効果ガスの排出を0にする」という目標を世界は掲げた。残された時間は28年、これがラストチャンスである。

脱化石燃料が日々議論されているが、農林畜産業のあり方が温暖化の原因の30%を占め、非常に重要であることがわかっている。

ザンビアでは、家庭燃料のために薪・炭が大量に使われ森林現象が深刻である(世界ワースト4位というデータもある)。乾燥化も進み度々干ばつに襲われる。

すでに新しい農林業の模索は始まっている。Agroforestryなど様々な用語があるが、有用な樹木を農業畜産業に取り入れ、森林を守りつつ、土を豊かにし、保水力を高め、農薬・化学肥料の使用量を減らし、生産性を高める手法である。温暖化を逆転させ地球を冷やす農業という意味で“Global Cooling Farm”と名づけ私も始めている。手始めにカシューナッツ450本などが育ちつつある。孫たちの世代に未来を奪われたと言われたいように残りの人生を使いたい。

個人的には“Edible Forest”(食べられる森)という言葉が気に入っている。マンゴ、パパイヤ、バナナ、パイナップル、コーヒー、モリンガ、カシューなどの多様な樹木を育て、養蜂や“Silvopasture”(林間放牧)、セラビアの養殖を組み合わせ、豊かな森に囲まれて、縄文人のように暮らしたい。稲作を導入したら弥生人かもしれない。



高松市と連携したJICA事業、カンボジアでスタート!

【カンボジアの救急医療に係わる研修コース・試験制度の構築と市民への応急処置法の普及事業】

カンボジアの救急医療レベルを向上させ、救える命を救いたい…これが、事業の根幹にある思いです。具体的には、救急医療に携わる医師の技術向上と、将来的にカンボジア人医師が指導者として後進を育成できるようテキストやプログラムを作成する活動、同時に地方の住民に緊急事態時の正しい応急処置法を広める活動を行います。

2022年から2025年までの3年間、カンボジア北西部のタイとの国境を有するパタンバン州が事業地です。

この事業はJICA地域活性型事業に高松市が提案団体、TICOが実施団体として提案し、2018年度に採択されたものです。コロナなどの影響でようやくスタート地点につきました。採択時点から状況が大きく変化しましたが、渡航すらできない状況が続いていたため事業内容の見直しも視野に入れ、まずは8か月程度の調査を予定しています。事業の内容を確定したのち、医師や高松市消防局から救急救命士の派遣による現地での研修、来日しての研修などを本格化させる予定

です。カンボジアで救急医療の指導をしてみたいという医師・看護師等の医療従事者、カンボジアの医師が来日した際に研修の受け入れが可能な病院・診療所等も募集しています。関心のある方はTICO事務局にメール等でご連絡ください。



寄贈した資機材を使ってトレーニング

● TICOの活動を応援してください! ●

TICO 会員募集	会員となって資金面からTICOの活動をサポートして下さる方を募集しています。	ご寄付	皆さまからのご寄付は、支援活動・団体の運営を継続するための大きな支えです。ご支援をよろしくお願い申し上げます。
年会費	賛助会員 個人 12,000円 ※通常は賛助会員での 学生 6,000円 ご入会をお願いしてい 団体 15,000円 ます。総会での議決権 を持つ正会員を希望 される方は事前にご連 絡ください。 正会員 12,000円	銀行振込	銀行名 楽天銀行 支店名 第一営業支店(支店番号251) 口座種類 普通 口座番号 7657541 口座名義 特定非営利活動法人TICO ※カナ入力の場合は、(トクヒ)テイコ
ご入会方法	ホームページから ①ご入会フォームにお名前等をご入力ください。 ②お支払い方法の選択:クレジットカード継続決済とゆうちょ銀行自動引き落としのいずれかを選択し、手続きに進んでください。 インターネットをご利用でない方 年会費を郵便局備え付けの郵便振替用紙で、次の講座へお支払いください。 ご住所・ご氏名(フリガナ)・お電話番号を通信欄にお書き添えください。 口座番号 01640-6-37649 加入者名 TICO	郵便振替	口座番号 01640-6-37649 加入者名 TICO
		PayPay	090-8662-9737
		クレジットカード	ホームページをご覧ください。

※会員の方には、TICOのニュースレター「Face to Face」を毎月お送りいたします。

特定非営利活動法人 TICO事務局 〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川 120-4

電話 0883-42-2271(平日 9:00~17:00)
 メール info@tico.or.jp
 ホームページ www.tico.or.jp
 フェイスブック www.facebook.com/ticohq

ブログ blog.goo.ne/tico.blog
 Twitter @TICOjapan
 Instagram www.instagram.com/ticojapan/



TICOニュースレター Face to Face 第59号
 2022年11月発行 発行人:吉田 修